

「情報公開文書」

単施設研究用

研究課題名：画像上 Pure-solid を呈する I 期肺腺癌に対する手術における診断的部分切除の腫瘍学的意義の検討

1. 研究の対象

2006年1月～2020年12月に当院で肺癌の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

肺癌手術時に肺静脈から結紮すべきか、肺動脈から結紮すべきかについては以前から議論されてきた。過去の文献では肺静脈先行結紮の方が無再発生存などの予後がよいとする報告もあるが、一方では両者に有意な差はないとする報告もある。

肺手術時には、肺静脈を結紮するまでに腫瘍を含む肺の圧排や把持、牽引といった操作が加わり、これらの操作によって腫瘍細胞が循環血液中に散布されている可能性がある。

そこで、本研究では肺門操作を行う前に、腫瘍を含む肺の一部を摘出する診断的部分切除が行われた後に肺葉切除を施行された症例とそれ以外の症例、すなわち診断的部分切除が行われずに肺葉切除が施行された症例について予後を比較する。

診断的部分切除が行われた症例の予後が有意に良好であれば、肺癌に対する手術手順の見直し、患者の予後改善につながり得る。

臨床病期 I 期の肺癌患者に対して肺葉切除を施行した患者を対象に、診断的部分切除を経たから肺葉切除を施行した群と診断的部分切除を行わずに肺葉切除を施行した群で 5 年無再発生存率を比較し、Cox 比例ハザードモデルによって診断的部分切除の施行が有意な因子かを解析する。また、再発症例について再発形式についても検討する。患者背景については、PS、年齢、体重、身長、性別、肺機能、併存疾患、腫瘍の局在、手術年、喫煙歴を収集する。プロペンシティブスコアを算出し、プロペンシティブスコアに基づいて標準化逆確率重み付け法によって患者背景を調整する。

3. 研究期間

研究実施許可日～2027年12月31日

4. 研究開始の予定日（研究のために情報を利用開始する予定日）

2026年6月23日

5. 研究に用いる試料・情報の項目

情報：年齢、性別、病歴、併存疾患、肺機能検査結果、手術記録に基づく手術内容、病理検査結果、カルテ番号、CT 画像における腫瘍径 等

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

宮城県立がんセンター治験・臨床研究管理室 倫理審査委員会担当
〒981 - 1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山 47 の 1
TEL 022-384-3151（代表）（内線 974）

研究責任者：宮城県立がんセンター呼吸器外科 矢吹 皓